

令和4年度の取組状況(決算見込等) について

いわき市医療センター 事務局経営企画課  いわき市医療センター

決算の概況(前年比較・令和元年度比較)

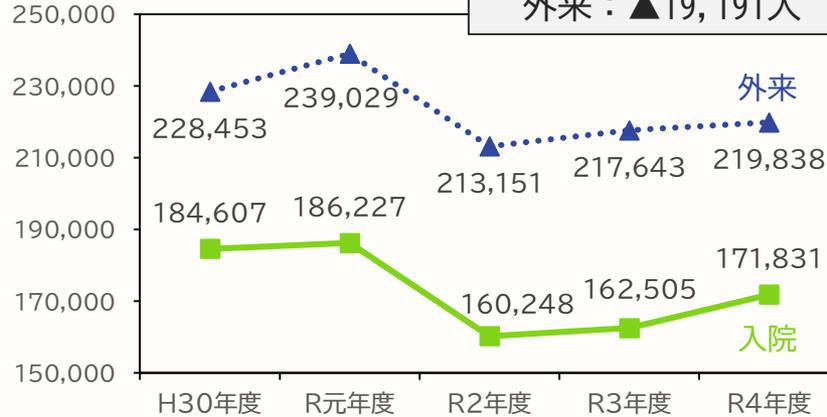
- 経常収益から経常費用を差し引いた経常損益は**22.0億円の黒字**で、特別損益を加えた**純損益は22.2億円の黒字**(前年比▲0.6億円)となる見込み。

科目 (単位：億円、税抜)	R4決算見込	R3決算額	比較	R元決算額	比較
	A	B	C = A - B	D	E = A - D
医業収益	187.0	177.0	+ 10.1	187.3	▲0.3
医業費用	220.2	211.9	+ 8.3	227.9	▲7.7
医業損益 (医業収支比率)	▲33.2 (84.9%)	▲34.9 (83.5%)	+ 1.8 (+ 1.4P)	▲40.6 (82.2%)	+ 7.4 (+ 2.7P)
医業外収益	66.3	68.0	▲1.7	40.3	26.0
医業外費用	10.9	10.2	+ 0.8	8.9	2.0
看護専門学校収益	1.6	1.6	+ 0.0	1.4	0.2
看護専門学校費用	1.8	1.7	+ 0.1	1.6	0.2
経常損益 (経常収支比率)	22.0 (109.5%)	22.8 (110.2%)	▲0.7 (▲0.7P)	▲9.3 (96.1%)	+ 31.4 (+ 13.4P)
純損益	22.2	22.8	▲0.6	▲9.6	+ 31.8

令和4年度決算見込について(診療実績)

延患者数(人)

R4年度・R元年度比較
入院：▲14,396人
外来：▲19,191人



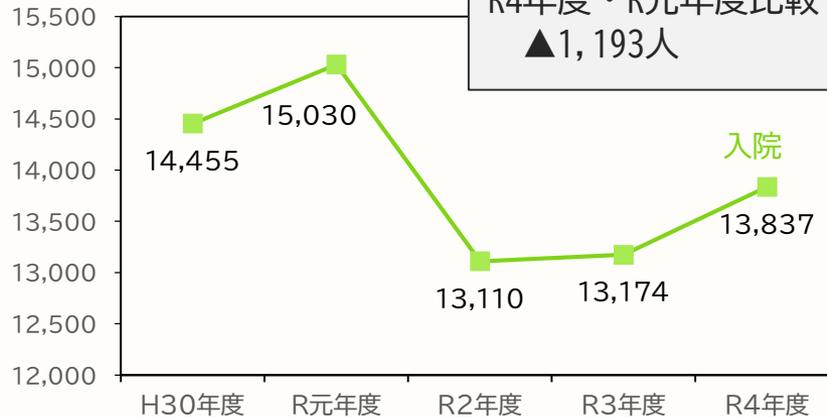
1人1日単価(円)

R4年度・R元年度比較
入院：+5,038円
外来：+2,679円



新規患者数(入院)

R4年度・R元年度比較
▲1,193人



新規患者数(外来)

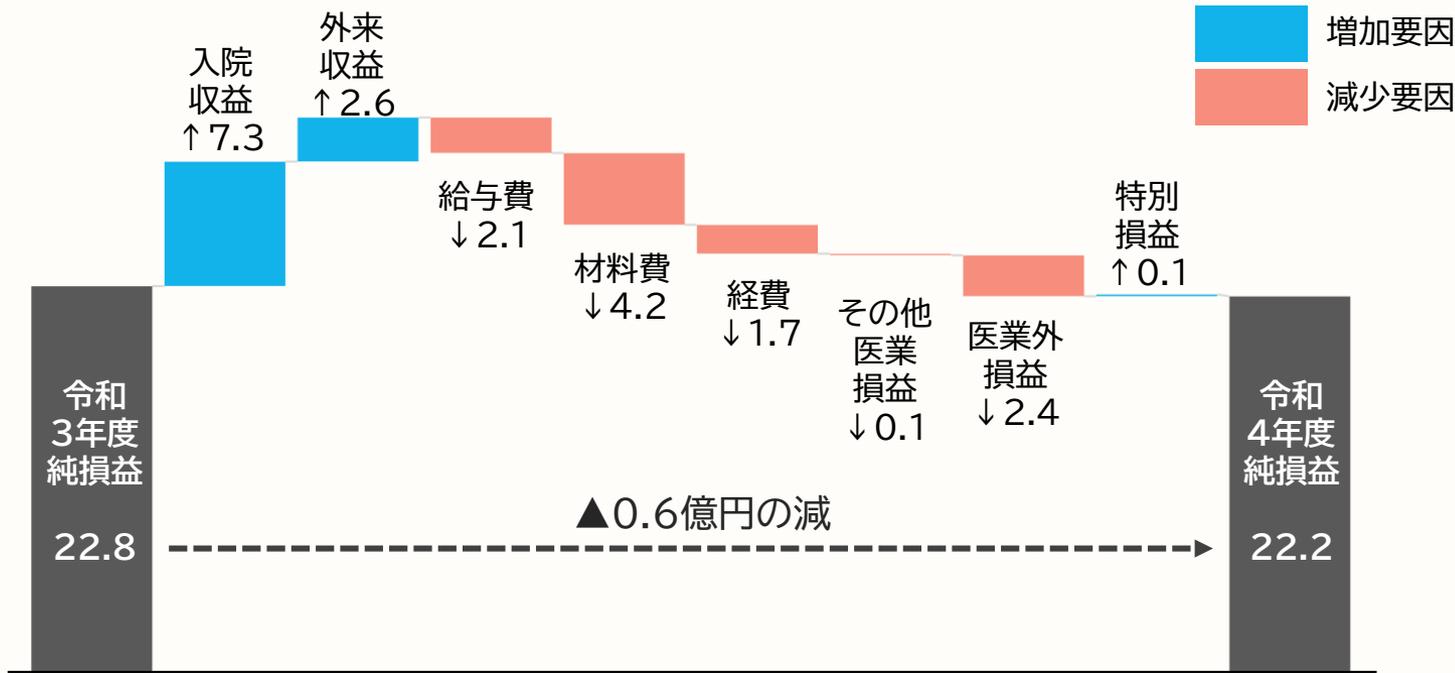
R4年度・R元年度比較
▲5,471人



令和4年度決算見込について(損益分析)

純損益の増減(前年比較)

(単位:億円)



【入院収益】紹介件数や救急車受入件数が増加し、患者数が復調基調にあることによる増

【外来収益】患者数は微増だが、バイオ製剤の増、抗がん剤の適用範囲の拡大等に伴う増

【給与費】看護職員等の処遇改善手当の新設による増

【材料費】患者数の増に伴う手術件数の増や、外来注射薬の処方増による増

【経費】燃料費高騰による光熱水費の増(+1.2億)、人件費単価の上昇による委託料の増(+0.3億)

【医業外損益】一般会計負担金の増(+1.4億)、補助対象病床数の減による病床確保料の減(▲3.3億)

決算の概況(前年比較・計画比較)

- 資本的収支に係る収支不足額は、**約12.3億円**(前年比+0.6億円)。

【国県補助金】医療機器整備に係るコロナ関連の補助金の増

【他会計負担金】企業債元金償還に係る一般会計からの繰入金の増

【建設改良費】医療機器の更新による増

【企業債償還金】新病院建設時に借り入れた地方債の償還開始による増

※ 前年比較

- R4年度に予定していた電子カルテシステムの更新(約17億円)をR5年度に繰り越したことから、計画額比較では大幅な差が生じている。

科目 (単位：億円、税込)	R4決算見込 A	R3決算額 B	比較 C = A - B	R4計画額 D(※予算額)	比較 E = A - D
資本的収入	19.2	17.5	+ 1.6	36.7	▲17.6
うち企業債	5.7	5.5	+ 0.2	24.4	▲18.7
資本的支出	31.4	29.2	+ 2.2	49.3	▲17.9
うち建設改良費	8.4	7.5	+ 1.0	26.4	▲17.9
うち企業債償還金	22.1	20.8	+ 1.3	22.1	+ 0.0
収支不足額	12.3	11.7	+ 0.6	12.6	▲0.3

※単位未満を四捨五入しているため、合計等が合わない場合がある。

主な評価指標(前年比較)

- 患者数の増を背景に、多くの指標は前年比で改善している。

【 経常収支比率 】 病床確保料の減により、前年比で微減

【 職員給与費対医業収益比率 】 給与費の増を上回る医業収益の増により改善

【 材料費対医業収益比率 】 高額な医薬品等の使用増により微増

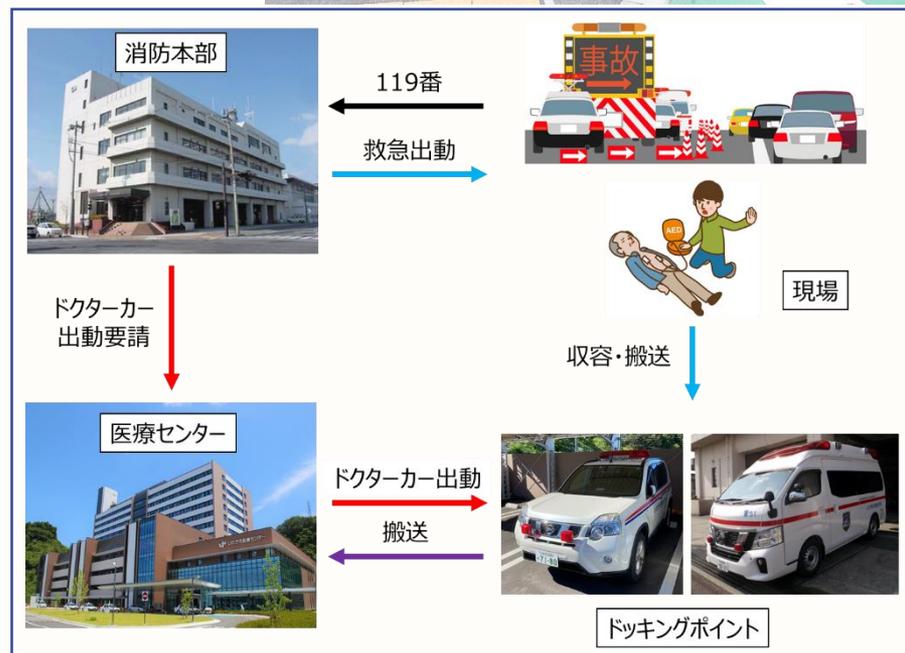
区分	R3年度 実績値	R4年度		R4-R3 実績比較	R5年度 計画値	R6年度 計画値
		計画値	実績値			
救急車受入件数	3,404件	3,900件程度	4,174件	+770件	3,900件程度	4,000件程度
紹介件数	18,843件	20,000件程度	19,379件	+536件	20,200件程度	20,500件程度
逆紹介件数	9,513件	10,000件程度	10,193件	+680件	10,100件程度	10,200件程度
新規入院患者数	13,174人	14,400人程度	13,837人	+663人	14,500人程度	14,800人程度
経常収支比率	110.2%	97%程度	109.5%	▲0.7P	100%以上	100%以上
医業収支比率	83.5%	84%程度	84.9%	+1.4P	84%程度	84%程度
職員給与費対医収比率	53.3%	53%程度	51.5%	▲1.8P	53%程度	52%程度
材料費対医収比率	30.7%	30%程度	31.3%	+0.6P	30%程度	30%程度

ドクターカー運用開始

- 令和4年10月、試験運用を開始。
- 医師1名(+ α)、看護師1名、救急隊員2名で運用。
- 月10件程度の出動要請に対応中。
- 患者が病院へ到着する前から医師が介入する「**攻めの救急医療**」を目指す。

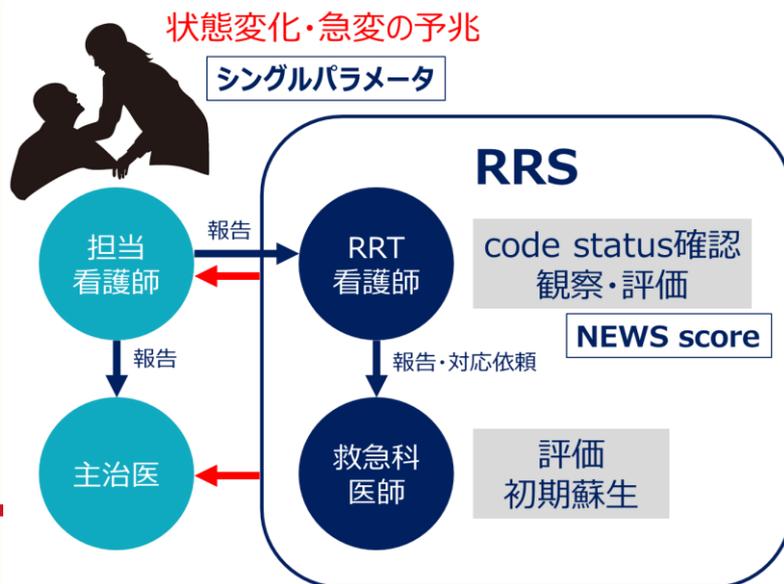


市消防本部スタッフ



院内迅速対応システム(RRS)体制整備

- 院内迅速対応システムとは、患者が急変する“前”に、病態変化を察知して対応し、心肺停止等を未然に防ぐ仕組みのこと。
- 当センターでは、急変の予兆を認めた担当看護師が内線コールすることにより、状況に応じて、救急科医師が病棟に急行する。
- こうした取組みの結果、令和5年度から「急性期充実体制加算」の算定が実現している。



【「コードブルー」との違い】

- コードブルーは、患者が心肺停止等の状態に陥った際に用いられるコールであるのに対し、RRSは、「心肺停止等になる“前”」に用いられる。
- 急変前に対応することで、生存率が大きく向上するとされる。

コードブルー code blue

病院内での心肺停止あるいは心肺停止が切迫した患者が発生した際の緊急コール

手術支援ロボット(ダヴィンチ)導入

- 令和5年秋頃に症例スタートする見込み。
※外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科などでの使用を想定



当センター内でのシミュレーション風景



広報ツールの充実・強化

- 令和5年5月、公式Instagramの運用を開始。
- 特に若い世代での利用が多いとされるInstagramの活用を通じ、より幅広い層へ病院の魅力を発信していく。
- また、令和4年11月にYouTubeで公開した当センターPR動画は、令和5年5月に1万回再生を達成。
- 既存の広報ツール(広報誌、フェイスブック等)についても、更なる活用を進めていく。

【参考】当センターの主要広報ツール



広報誌



Facebook



YouTube
(PR動画)



Instagram

当センター公式Instagram

